

人と自然の博物館と三田屋だ

by 脂肪肝大玉

1. フラワータウンとは

今でこそ大私鉄・神戸電鉄の支線が伸び、小学校を5校も抱えるニュータウンとして有名なフラワータウンだが、それもここ5年のこと。

では5年前の今頃は、この場所は何だったのか？

実はフラワータウンは、誰も知らないマイナー博覧会『ホロンピア』会場だったのだ。

OH!WOO!! にホロンピアの記述がでてくるのは1988年8月号（通巻32号）だ。実に昭和の時代だ。このころ OH!WOO!! 誌面では、終着旅団はおろかローカル私鉄も始まっていなかったし、パ・リーグ情報は始まったばかりだったし、そのパ・リーグには南海も阪急も健在だった。私事では、車はエスクードの前のコロナだったし、仕事も禁断の高校講師時代だったのだ。—— スゲー大昔のことだ。

その大昔に、『21世紀都市公園博覧会（ホロンピア88）』が開かれた。WOO取材班は、3D映画を見、ホロンちゃんに絶望し、T氏の手は震え、優勝したS氏はナンノ（死語？）に祝福のキスももらったのだった。

ホロンピアは、博覧会の跡地をすぐさま利用することを前提にしていたので、大型テントと仮設施設の集合した簡易博覧会だった。

繁栄を極めるフラワータウンの住人のどのぐらいの人が、『ホロンピア』という名を知っているのだろうか。

これはほんまに聞き取り調査をしてみたらよかったなあ。

今回の取材の目的の一つはこのマイナー博の跡地を探るというものだ。

さて5年ぶりにフラワータウンを訪れた取材班は、元博覧会会場を捜すのに苦労した。ぐるぐるとタウン内を迷走したあげく、けっきょく駅のそばにあることが分かり、ちょっと疲れたぞ。

2. 人と自然の博物館

さて谷地を利用した広大な芝生広場は5年前のままだった。周囲にあったパビリオンや遊園地は撤去され、跡形は全く無かった。周囲はちょっとした林になっていて、いかにも市民の憩いの場という感じだ。

ホロンピアから唯一残っていたのが、メインの建造物で、これは100mほどの幅、10mの奥行きを持つ細長い形の建物で、表面は総ガラス張りだ。この建物が谷をせき止めるダムのような形で建てられている。

この建物が現在『人と自然の博物館』となっており、安い見学の割に実にGOODな博物館だ。

駅から会場跡地へ向かうと、立派なエントランスがある。案内所があり、

そこでチケットを買う。案内所を出て階段を下りて、博物館の2Fから入る。階段を下りても2Fということは、案内所やエントランスは、かなり高い場所にあるということだ。これは、この建物がダムのような形の建物であることに由来する。

2Fから入り、特に順路というものは無いので、オープンに見て廻るようになっていいる。

展示内容は—————

館名からも分かるように、環境問題や自然科学、地理や都市問題などが主で、エコロジーな方々や理科の教員の方々には、GOODな内容ですな。展示量もけっこう盛りだくさんです。館全体を見て廻ろうと思ったら大変な時間がかかりますぞ。雨の日など暇な一日をつぶして学習に行くつもりなら良いでしょうな。

パソコン案内板や球形VTR・小シネマ・巨大骨格模型など、子どもたちの興味を引きつける展示物も豊富です。

子どもたちは知らず知らずのうちに地球や環境についての興味や知識を深めることでしょう。小中学校の先生方、ぜひ貴校の遠足に当博物館をお選びください、なんてね。

いろいろおもしろい展示物が多い反面、内容のレベルや展示方法が今一つ統一がとれていない、という感じもする。そういった意味では高校の文化祭を見ているような感じがしないでもない。

もうひとつ、せめてパンフをくれい。入場料が安いからしかたないかもしれんけど、問い合わせをするにも、このような記事を書くにも、パンフが無いとちょっと辛いものがあるぞ。全体としては大変良い博物館だから、上記の内容を改善し、これからもがんばってくれとよいぞ。ははは。



ホロンピア会場跡地・芝生広場

3. 血圧上昇の国道ドライブ

実はゆっくりと博物館を見る時間がなかった。我々は急いでいたのだ。

なぜ急いでいたかという、昼食の危機を迎えていたのだ。

取材に三田へ行くと決まった段階で、三田屋のステーキに我々の想いは馳せ、三田屋のステーキを思うと夜も眠れず三度の食事も手につかなかったくらいだったのだ。

それなのに、三田屋の「ステーキランチは2時まで」という情報があった。時間はもう1時半を廻っている。

フラワータウンには「三田屋本店・やすらぎの郷」があるが、ここは慢心にもお昼のランチをやっていないことはすでに調査済みなので、我々は西宮北インターまで戻らなくてはならないのだ。

しかし。国道176号に出る信号で車の流れが滞る。

渋滞？

スタッフの胸に不安がよぎる。

しかし信号が青になると、滞っていた車は動きだし、無事176に合流。信号通過の際、仮に前の車が赤信号で止まろうとしたら、抜いてでも行くのだ、などという過激な意見が飛び出す。

無事176に出たと思ったら、今度は前方の白いローレルが我々の車の行く手を阻む。とろとろとろとろ走り、ローレルの前の車との車間が異常に開く。いらつく我々はローリングをしながらローレルにピッタリと迫り、パッシングをし、クラクションを鳴らし、とどめにミサイルを発射して撃滅したかったが、こんなところで事故を起こしては三田屋どころではないと考え、大人しくしておいた。



人と自然の博物館とヒト代表 SK氏

4. 三田屋のランチ

1時59分。三田屋着。

SK氏が脱兎のごとく飛び出し席を確保。一同急いで入場。

しかし2時までだったのは、平日のちんけなランチのことで、ハイブローな我々が食するステーキランチは3時までOKだったのだった。脱力。

料理を注文し、前菜が来るまでの間、テーブルクロス代わりに三田屋のチラシを読む。タマネギの効用が書かれている。

ふむふむ。タマネギは体に良いのか。高血圧を押さえ、消化を助けるのか。なるほどなあ。なににタマネギ健康法なるものもあるのか、ほおー。

おかげで前菜のハムとタマネギのサラダは来ると同時に無くなってしまった。一気だ。

その後、野菜サラダとスープが来て、ほどなく鉄板の焼ける音とともに、ステーキが運ばれる。

速攻で肉を広げる。このとき、肉を焼きすぎないことと、肉に気を取られて野菜を焼き忘れないことが肝要だ。

一口喰うまでは無言だ。

ステーキはさすが、味・ボリュームともにGOODだ。和牛独特の柔らかさ・味の良さ。輸入肉とは明らかに違うもんね。

タマネギ・ニンジン・ポテトの脇役勢も肉汁が染みてGOODだ。

乾燥にんにくのトッピングも自在だ。これで新車のアベちゃんも一巻の終わりだな、ふふふ。

一気に食べた後は、コーヒー OR アイスで舌なおし。

GOOD

実にGOODな昼食であった。できれば前菜のハムをもう少し食べたかったな〜。昔はお代わりできたんだけどな〜。店を出て振り返ると、「ハムサラダお代わりできます」どっひええ〜！
急いで入るんじゃないかった！



ステーキ…右手のピンは何だ？

この項 おわり

OH!WOO!!掲載時とは

写真を一部変えています。